

SDP 社民党 下北総支部情報

コロナ禍を克服するために…何をなすべきでしょうか

下北地域の医療崩壊を防ぐために

全国で 14,120 名（4/28 現在）の感染者が発生し、県内でも 26 名の感染が確認されています。幸い下北地域では確認されていませんがクラスター感染が全国的に蔓延する中で全く油断できない状況です。

「市民連合あおもり」の共同代表の大竹進医師は次のような見解を示しています。『都会では、救急医療の崩壊が始まっています。青森県では、まだ大丈夫と思っているかもしれませんが、医療資源の少ない田舎では、一発で医療が崩壊します。どういうことか？下北半島の医療を想像してください。むつ病院の医療者の誰かが感染したとします。むつ病院の救急は中止、外来は中止、多くの医師と看護師は「濃厚接触者」になり、今のルールだと「自宅待機」になります。代わりの医師・看護師はいません、代わりの病院がありません。1 人感染者が出たら、下北の医療は一発で崩壊します』と述べています。それぞれが、感染しないよう、感染させないように努力しましょう。

電話診療・オンライン診療の拡大へ

また、コロナの感染拡大で、医療機関への受診をためらう方もいますが、今般、厚労省より通知が出ました。

電話での診療をしている医療機関が、これから青森県のホームページに順次公開されます。残念ながら下北地域で対応している医療機関は他自治体に比べてごく少数です。（県内実施医療機関 169 か所のうち下北は 5 か所）

通院している医療機関が、電話での診療に対応しているか確認してみることも一つの方法です。今までと同じ薬は、「電話再診」でもらえます。手元に保険証とお薬手帳を用意して、体温や体重、血圧などいつも測定している数値も用意して電話をします。電話で医師の診察を受けて、どこの薬局から薬をもらうかを伝えます。医療機関から希望の薬局に処方箋のファックスが送られ、薬局に薬を取りに行くことも可能ということです。多くの診療機関が一日も早くこうした対応をしてくれることを強く願います。

下北地域で電話診療ができる医療機関

さいクリニック	039-4711	下北郡佐井村大字佐井字大佐井川 38-1	0175-33-2424
むつ総合病院	035-8601	むつ市小川町 1 丁目 2 番 8 号	0175-22-2111
国民健康保険大間病院	039-4601	下北郡大間町大字大間字大間平 20-78	0175-37-2105
ちば小児科アレルギー科クリニック	035-0066	むつ市緑ヶ丘 6-16	0175-33-8001
東通村診療所	039-4222	下北郡東通村大字砂子又字里 17 番地 2	0175-28-5111



新型コロナウイルスの感染者が確認されている下北地域。唯一の感染症指定医療機関・むつ総合病院（むつ市）は、感染が発生した場合、一般患者の診療にも影響し、医療体制の崩壊につながるかねない危機感を募らせている。新型コロナウイルス専門の外来設置などの準備を進める一方、住民に向け「一人一人の予防が、地域医療を守ることにつながる」と感染防止対策の徹底を呼び掛けている。（工藤洋平）

むつ病院 下北でコロナ感染発生なら ぎりぎりの人員 一般診療影響も

住民個々の予防が重要

むつ総合病院の敷地内で設置の準備が進められている「新型コロナウイルス外来」のプレハブ
14日

重症の感染者治療に使える人工呼吸器は、10台準備している。だが、一般患者の診療にも使つため、全

同病院の新型コロナウイルス対応は、完全予約制の新型コロナウイルス外来設置や、感染者を受け入れる個室4床の確保などの方針が決まっている。ただ、嘔吐正副院長は「今でもぎりぎりの人員で運営している。コロナ患者対応にマンパワーを回すと、相応な戦力ダウン。必要な診療や看護・介護に目が行き届かななくなるかもしれない」と打ち明ける。

現状でも、415床ある病床の8割以上が一般患者で埋まっている。4月1日現在の常勤医師は、研修医も含めて62人。看護師数は341人。新型コロナウイルス感染者が一人でも発生すれば、診療する医師や医療スタッフの分、外来や入院に対応できる人員が減る。一般外来や入院を制限する事態もあり得るという。

下北は民間の医療機関が少ない。他の医療機関とは距離があり、感染者の移動は難しい。嘔吐正副院長は「下北で感染が発生した場合、できるだけむつ病院で対応を完結させないといけない」と話す。

むつ総合病院は院内感染防止策として、入院患者への面会制限を続けている。「目覚めがなくなっても、患者に感染させる可能性はある」と徳田孝子事務局長は協力を求める。

加えてむつ市は、新型コロナウイルス対応をまとめた市の広報外（4月1日から配布）で、市外への外出や、市外からの家族の帰省を極力控えるよう呼び掛けている。むつ総合病院を運営する一部事務組合の管理者も務める宮下宗一郎市長は「一人の自覚と行動が自分自身を守り、みんなを守り、地域の医療を守ることにつながる」と話している。

東奥日報でも下北医療の脆弱さが報道されました。

4月の新聞から コロナ関連記事を ピックアップしました

むつ市議会会派「未来への軌」が 市長に新型コロナ対策を緊急要望

21日、代表の原田敏匡市議らが宮下宗一郎市長に申し入れた。内容は(1)経済的支援、(2)情報発信・公開の拡充、(3)感染予防策の強化、(4)学校休校、学級閉鎖などへの対応一の4項目。要望に当たり、会派が独自で市民対象のインターネットアンケートを実施した。

東奥日報 4/22

風間浦村、住民へマスク 1人につき5枚配布



住民に人数分のマスクを配る村職員＝風間浦村下風呂

ドラッグストアがない風間浦村では13日、入手が困難となっているマスクを20人の村職員が住民を戸別に訪問して配った。すでに配布済みの園児や小中学生を除く全村民が対象で、1人につき5枚。
職員3人が1組となって回った下風呂地区は温泉街だが、宿泊客の姿は見当たらず、閑散としていた。マスクを受け取った女性性は「花粉症だから買い置きがあったが、尽きかけていて助かりました」。他の町から食料品店に立ち寄った女性性は「うちの町でも配ってくれないかしら」と話していた。

(伊東大治)

朝日新聞 4/15

むつ病院に感染症外来 16日以降

下北5市町村で構成する一部事務組合下北医療センター(管理者・宮下宗一郎むつ市長)は8日、むつ市の公済会館で新型コロナウイルス感染症対策連絡会議を開いた。宮下市長は、むつ総合病院に16日以降「新型コロナウイルス外来」を設置し、4月中にもプレハブの診察室を完成させると表明



した。また、同病院6階の入院病棟の一区画に新型コロナウイルス陽性患者を受け入れるため個室4床を確保した。「新型コロナウイルス外来」は完全予約制。一般患者との接触を避けるため、同病院敷地内にプレハブで診察室3棟、受付1棟を設ける。医師や看護師ら計26人からなる専属チームで対応する。会議終了後、宮下市長は新型コロナウイルス陽性患者を同病院で1人でも受け入れた場合、一般患者の新規入院や外来の受け入れを制限する可能性も示唆した上で「下北の脆弱な医療体制を実感している。市民の健康と命を守るため、管理者として早めの設置を決めた」と話した。また、医師と看護師に特別手当の給付も検討しているという。

東奥日報 4/25

東奥日報 4/9

同日、市役所で開いた対策本部会議終了後に説明した宮下市長は「緊急事態なので、市としてやることから始めていく」と語った。

(鳥谷部知子)

むつ市も無利子融資

むつ市の宮下宗一郎市長は3日、新型コロナウイルス感染症の影響で売り上げが減少している市内の事業者向けに、無利子、保証料ゼロの中小融資制度を設ける方針を示した。4月中のスタートを目指す。融資限度額は300万円、100件程度の利用を想定。事業者の取引金融機関から借り入れる。利子や保証料は市が負担し、10年間で5千万円程度を措置する方針。国の基準に基づき市が要件を認定した事業者が対象となる。

(工藤洋平)

東奥日報 4/4

東奥日報 4/29



むつ市の給付 来月7日から

まず単身世帯に申請書むつ市は28日、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う国民一律10万円給付金について、5月7日から順次市民向けの給付を始めるとの見通しを示した。4月30日の臨時市議会で補正予算案が可決されれば、同日にまず単身世帯へ申請書を送る方針。5月1日から受け付けを開始する。複数世帯には8日から申請書を発送する予定。市は7月31日まで申請を受け付け、順次給付する。給付総額は56億2360万円。4月28日、市役所で開かれた市の対策本部会議後、市側が給付金に関して報道陣に説明した。

三ツ柏さとう商店 隆輝漁業 市に物品や購入費寄付

むつ市の2事業者が、学校での新型コロナウイルス感染症予防対策に役立ててほしいと、衛生用品や購入費用を市に寄付した。6日、代表2人がそれぞれ、市役所を訪れ報告した。三ツ柏さとう商店は、自社で製造・販売しているアルカリ性の洗浄除菌水を寄付。市内の全小中学校に行き渡すよう、3リットル入り25袋を用意した。佐藤俊介代表は「手指だけでなく、手すりなどの設備の除菌にも使ってほしい。子どもたちや家庭に、少しでも安心を届けられれば」と話した。大畑漁港を拠点に中型イカ釣り船漁を営む隆輝漁業は、学校向けのハンドソープや消毒用アルコール購入費用を寄付。吉井守征社長は「世界中で状況が厳しい中で、今できることを考えた。子どもたちの手洗いが、家庭での予防にもつながってほしい」と語った。寄付を受けた宮下宗一郎市長は「危機のときに何ができるかを考えて行動する大切さを感じた。学校の安全な運営に万全を期す」と感謝した。

むつ市の宮下宗一郎市長は8日、市独自の新型コロナウイルス感染症対策実施のために、2020年度市予算を再編する意向を明らかにした。6月定例市議会での提案に向け準備する。市役所で開いた対策本部会議後、報道陣に述べた。市内のイベント中止、市職員の出張自粛などに伴い、20年度予算の関連経費が支出されない見込みとなっている。これらの予算や、19年度会計で生じる剰余金の活用も視野に入れて、感染予防や経済対策、教育・保育への支援策などを検討する。宮下市長は「コロナ対応に特化した形で予算を抜本的に見直す。財政規律を保ちながらも、市民に寄り添った支援を考えていきたい」と話した。会議ではこのほか、市役所本庁舎で職員や来庁者の感染が発生した場合の対応について協議。庁舎を閉じて消毒し、その間は市立図書館に市民対応窓口などの機能を移すことを決めた。市職員の在宅勤務や分散出勤などを各部署で実現できるか検討し、早ければ13日以降から実施する方針を確認した。

連合下北地協、むつ地域退職者連合 手製布マスクをむつ市へ贈呈へ

連合下北地協ではOB組織のむつ地域退職者連合の協力を得て、手作りで布マスク約150枚を作成しました。今後、むつ市へ寄贈しコロナ対策に役立ててもらうことにしました。



佐井 ◆婦人会がマスク寄贈 新型コロナウイルス感染症予防に役立ててもらおうと、佐井村婦人会は23日、村役場を訪れ、手作りマスク160枚を寄贈した一写真。

婦人会は3月に村内の全小中学生と教員向けに手作りマスク200枚を贈っており、



寄贈は計360枚となった。

受け取った樋口秀視村長は「心が温まるマスク。有効に使わせていただきたい」と話した。婦人会のメンバーは「布やゴムなど材料が購入できず、各家庭に眠っていた布やさらして作った。衛生面には特に気をつけた」と話した。

樋口村長は使い道について「マスクを着用せずに役場窓口を利用した村民にプレゼントしたい」と話した。（鳥谷部知子）

東奥日報 4/27

●横浜／町内の手作り 人気 道の駅「菜の花プラザ」

新型コロナウイルスの感染防止が叫ばれる中、横浜町の道の駅よこはま「菜の花プラザ」では町内の洋品店や個人の作った布製マスクが安価で販売され、人気を呼んでいる。制作する町民は「マスク不足の解消に少しでも役立てれば」と話している。同町の洋品店「むつドレス」は今月からマスクを作り始めた。縫製工場に残っている生地を活用し、元従業員らも参加して制作。白地のマスクだけでなく、柄物やデニム地もよく売れているという。知人の町民からマスクを作ってほしいと依頼されたのがきっかけ。日頃から商品を道の駅に出していることからマスクも置いたところ、購入者が次々に現れる状態となった。柳町社長は「まさかこれほど売れるとは思わなかった。マスクを求める人たちのために、できる限り作り続けたい」と語る。現在は大人用を1枚300円で販売。布製のため何度でも洗って使えるという。竹林駅長は「みんなに喜ばれており、町外から買いに来る人もいる。今度は子ども用のマスクもぜひ作ってほしい」と話している。

●東通／保健福祉センター利用者が製作協力

温泉施設などがある東通村保健福祉センターの利用者有志が、新型コロナウイルス感染症の影響で品薄となっているマスクを手作りするボランティア活動を行っている。村社会福祉協議会は、村内の子どもたちや医療機関向けに、ボランティアが作った布製マスク1100枚を寄贈した。村社協は同センターの入浴客らに、手芸を楽しんでもらったり、施設の除草に協力してもらったりするサロン活動を行っている。新型ウイルスの広がりを受け、住民から「何かできることはないか」と相談を受け、3月末からマスク作りを始めた。10日間ほどで延べ80～100人が協力した。10日は、約10人の利用者がマスク作りに参加。大人用にはさらし布、子ども用には色柄付きのガーゼタオルを材料に、裁断や仮縫い、ミシン縫いなど、手分けして作業した。耳にかけるひもには、ストッキングを加工したものを活用する工夫もしている。同村白糠の伊勢田洋子さん（77）は「布マスクなので、洗って再利用できる。子どもたちや村の皆さんに、苦しい思いをさせたくないし、村にウイルスが入ってこないでほしい」と願った。

医療現場からの切実な声です。ぜひご一読ください

県内でも医療従事者や介護従事者の間でも感染が確認されています。こうした中、友人よりコロナ対応されている看護師さんからの情報がありましたのでお知らせします。少し長いですが貴重なリアルな声です。

東京の大学医学部付属病院で看護師をしている者です。この度、4月頭からコロナ外来に選出され、毎日PCRや入院手続きなど実施しています。今、私から最新の情報を発信できると思い、情報をアップします。まず大事なことは漠然と怖がらないで、きちんと理解して適切に怖がろうということです。空気感染ではないので、ふわふわ飛んでいるのではなく接触！飛沫！人のしゃべるツバ！この見えない概念の理解が大事なと思っています。マスクとマスクをしていれば基本的にうつりません！

以下、100人くらい問診した結果からの情報です。

<症状の特徴>

コロナウイルスは7日～10日にピークを迎えます。

- ①最初に倦怠感が顕著に出る
- ②頭痛がほとんどの人で出現
- ③下痢（回数は多くない）も多い
- ④途中から味覚や嗅覚も全くなくなる人が半分位いる
- ⑤発熱 軽症：微熱がだらだらと続く
中症：39度台くらいまで上がる
重症：38度以上がずっと続く

特徴は一旦7日目位におさまってまたぐんぐん出る
日内変動はある

- ⑥咳や痰はあまり多くない印象
- ⑦若くても息切れが出てくる
- ⑧喘息や喫煙歴、糖尿病があると重篤化しやすい
- ⑨肺炎像は両肺に淡い影がはっきりと出る
（レントゲンよりCTがいいです）

<現在の治療 対症療法のみ。当院では>

- 発熱、頭痛：カロナール（イブやロキソニンは×）
- 抗生剤は基本的に効かないので飲まない
- 咳：デキストロメトルフアン臭化水素酸塩水和物
- 痰：カルボシステイン
- 下痢：整腸剤（ミヤBMなど）

<PCR受けるまでの流れと結果>

- ①発熱と上記症状があった場合、保健所に電話。ひどいと2時間繋がらないとか丸2日間繋がらないという現状がある。繋がらなかつたら他の近隣地域の保健所に電話してください。
- ②経過観察と言われることが多い様ですが、そんな時は近医にまず電話をしてから受診。だいたい上の薬+医師によっては抗生剤を出して自宅待機となる。
- ③解熱しない、もしくは症状が消失しない場合は遠慮なく保健所にもう一度電話する。
- ④それからPCRの検査を受ける場所を指定される。
- ⑤病院や検査所から直接電話があり、受診の日時を聞く。
- ⑥保健証と現金を持って検査場へマスクをしていく。
（保険が効けば料金は1,000円程度。CTなどを撮影すると6,000円程かかる）
- ⑦薬が必要であれば依頼して帰宅。帰宅は交通公共機関を使わない。
- ⑧翌日保健所が検体を持っていく。今検査が立てこんでいて月曜日に出した結果が金曜日にならないと戻ってこない。つまり5日間位かかる現状。
- ⑨自宅で呼吸苦が出たら保健所に電話。万が一繋がらなくて危険を感じたら迷わず救急車を呼ぶ。
- ⑩症状が落ち着いたら今後はPCRしないで2週間後から普通の生活になる方向。家族も2週間同じ対応で。

<実際にうつる場所の印象>

- ①居酒屋や外食店のホールスタッフの手が怪しい！毎回手指消毒していなければウイルスのついたお皿をさげて次の人のお皿を運んでいる可能性が十分あります。
- ②ライブハウス系の人はよく来ます。
- ③陽性の出た人の家族はほぼみんな陽性です。
- ④孫が祖父祖母宅に遊びに行つて濃厚接触をする。
- ⑤病院関係のクラスターとその家族や、それらの人と接触した人。

<入院となった場合>

- ①指定病院がなかなか空いておらず、とにかく医師が電話して探し回る場合が多い。その間患者は待っていて家族が荷物をまとめて持ってくる。入院したら面会は一切禁止。現金、持参薬も一切持ち込み禁止。
- ②とにかく病室の中から出れないで対症療法のみ。
- ③呼吸状態が悪化したら、ICUで気管挿管し人工呼吸器をつけるしかできることはなく、あとは患者の免疫力で回復を祈るのみ（悪化しても回復する患者もいる）
- ④万が一のことがあった場合は最後まで家族に電話をして状態を伝え、火葬してから遺族に遺体を返す。入院になった時点で軽症化するまで一切誰とも会えず、そして重症化したら一気にあつけなく…という印象があり、ここが怖いところです。
- ⑤軽症になったらすぐに専用の移送の車でホテルへ移動して療養。結構これは早い段階でスムーズにいきます。新患者や重症者のベッド床を確保するために。

<私が気をつけていること>

- ①口から入るのが一番うつるので食べる前、ドアノブなどどこにも触らない状態にしてから、爪や指と指の間までしっかり洗う！これにつきます！
- ②1日8時間睡眠（睡眠を十分にとる）
- ③現金は一切触らず全て電子マネー。
- ④クラスター現象の場所や病院はできる限り行かない。
- ⑤携帯電話は食事中触らない。帰宅後はまず第一に消毒してから家にいれる。
- ⑥マスクの表面は絶対に触らない。ポケットにしまった手は汚染していると認識する（マスクは基本1枚/日）
- ⑦タクシーに乗らない。実はコロナ患者さんはタクシーで移動してる人が多いので、タクシーは基本的にコロナウイルスウヨウヨです。

<患者の流れ>

- ①3月の3連休で陽性となった患者のPCR検査はピークアウトしてから実施されている。若い人が多く軽症が多い。
- ②4/5週はその家族が続々ときて陽性になっている場合が多かった。高齢者にうつり、重症な肺炎も多々見られるようになった。
- ③4/12週はクラスター本人とその家族も一気に陽性となった印象。
- ④陽性になった患者の同居人はだいたいうつるので適切な隔離方法を指導している。

以上です。必要以上に怖くなるような情報は避けたつもりです。日本は他国よりだいたい2週間程、対策や実行が遅れている印象があります。お金の心配も絶対あると思います。ですが、目先のことで、今ぐっとこらえることが大事な命を救ってくれます。私が今いる病院の中にもまさにコロナ戦争ですが、みなさんに応援してもらって私達医療従事者は頑張っています。本当に感謝しています。